

三豊・観音寺支部国語部会

三観・高瀬中 白川 健太

1 研究主題

生きて働く言葉の力を育む国語教室～言葉による見方・考え方を働かせ、深まる学び

2 研究活動の概要

〈令和6年度 三観地区中学校教育研究会国語部会夏季研修会 7月26日(金)〉

(1) 会場 豊中町農村環境改善センター

(2) 教育会全国大会の発表内容検討

提案者 岡田 利廣 教諭(豊浜中)

提案発表の概要

香川県の国語科教育で目指されてきた、「生きて働く力」を身に付けさせるため、国語科教育で習得した力を、どう人生や社会の中で活用できるようになるかに焦点を当て、そのことを生徒が実感できる授業を目指した。

こうした授業を実現させるため、「言葉による見方・考え方」を言語事項に係る視点と汎用性のある思考様式の掛け合わせと捉え、生徒が授業で学ぶことや身に着けた力が明確になるようにした。

また、単元構成の中に、「言葉の力に築く習得の場面」と「習得した力」を別の教材で活用する場面を意図的に組み込むことで、言葉による見方・考え方を鍛え、自分の習得した力を人生や社会生活の中で生かす可能性を生徒たち自身が感じられるようにした。活用の場面では、生徒たちの実生活との関連を図り、サブカルチャー教材など、境界線上の教材を積極的に活用し、生徒の知的好奇心を刺激する。

実践を行う中で、生徒が日常の生活に、国語科で学んだ言葉による見方・考え方を働かせようとする姿が見られた。また、授業で何を教えるか、何を考えさせるのが

焦点化され、教員の授業づくりに大いに役立ったという成果も見られた。

(3) 全国大会(神奈川大会)分科会提案発表内容検討

提案者 大塚 裕介 教諭(大野原中)

提案発表の概要

① 学年 1年生

単元名 説得力のある根拠とは何か

説得力をキーワードに、根拠の確かさを吟味する授業を目指した。自作広告は、教員によるオリジナルで、書き手の違う3つの文章を比べられるようにした。

教科書の文章の根拠を吟味→見方を習得した見方を活用し、3つの広告文を比較して、より説得力のあるものを選んでいった。

② 学年 2年生

単元名 それって本当ですか？

ネット上の文章は、ひろゆき氏の文章を扱い、論証の仕方を吟味し、論理の展開を学ぶことを目指した。

論証ゲームで論証の仕方を習得させ、

教科書の本文を読み比べる中で、習得した見方を活用させ、新たな読み方を習得するといった、習得の活用の往還が発生するように仕掛けた。

例示について自分なりの解釈をしたり、実体験の重みについて実感したりする様子うかがえた。単元末の振り返りには、見方を働かせて読みを深めた結果として、見方が更新され、自分以外の読み手の存在の意識や、論証そのものへの解釈、学校生活におけるものの見え方が変化したという記述があった。

③ 学年 3年生

単元名 説得力の意味

1年生から2年生までの学習を生かし、筆者の論の進め方や説明の仕方を

批評する学習を行った。

反対意見を想定し、それに対する反論をすることで説得力を持たせている「反論の反論」を習得させる。その活用場として、実際に配信されたニュースとコメント欄を批評する活動を設定した。

これまでに学習した見方で項目を立て、生徒たち自身の手で読み深めることを狙った。生徒たちは「比較」「問いと答え」「説得力」「主張と例」「反論の反論」などの見方で、ニュースやコメント欄を批評していった。

初読後の振り返りの時点で、これまでに習得した見方(図、データ)を働かせており、これまでの学習が積み上げられている。また、単元末の振り返りでは、見方をより深く実感したり、自分なりの解釈をしたりする様子が現れていた。

身近な言葉を教材化したことで、日常に生かす意識や学習意欲の向上が見られた。また、学ぶことの楽しさを実感している生徒が多かった。今回、見方を習得・活用するにあたって、学んだ見方や考え方を可視化した「見方・考え方カード」を用いた。見方考え方カードを使用したことで、読む負担が軽減され、自ら読もうとするための手助けとなった。また、グループでの対話の際にも活躍していることが分かった。



【見方・考え方カード】

3 成果と課題

全国大会までに取り組んできた、「言葉による見方・考え方」を意識した授業や、「習得」と「活用」の場を意図的に設定する単元構成を継続的に取り組む授業によって、生徒たちの言葉に対する感覚が磨かれている。授業中の意見や、最終課題などの成果物には、授業で学んだ見方・考え方が反映されており、「聞くこと・話すこと」や「書くこと」の分野においても、学んだ力が発揮されている。これからもこの取り組みを継続させ、より言葉にこだわった授業を展開できるようにしたい。

隔月で行われる勉強会には、多くの教員が参加し、授業力向上のために意見を交わしている。今年度は、「読むこと」で学んだ力を「書くこと」の分野へ転用させるための取り組みを行った。「ライティング・ワークショップ」や「ストーリーマップを用いた創作の授業」など、明日の授業に取り入れられる内容も多く、若年教員の授業づくりにも大いに役立っている。しかし、指導者の日程調整や、学校行事の兼ね合いで、勉強会の開催が厳しい月もあった。参加教員の負担を軽減させるために、内容の精選を行い、短時間で有益な勉強会にする必要がある。

全国大会によって、教員間のつながりも増え、まとまりをもって研究できる体制となっている。互いの実践を紹介したり、それぞれの実践に意見を出し合ったりするなど、三観の至るところで自主的な研修が行われている。この体制を崩すことなく、地区一丸となってさらに研究を深めていきたい。



【研修で意見を交わす様子】